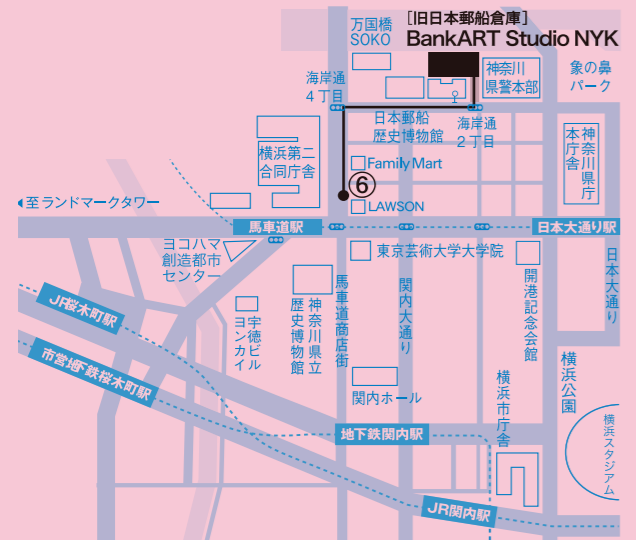
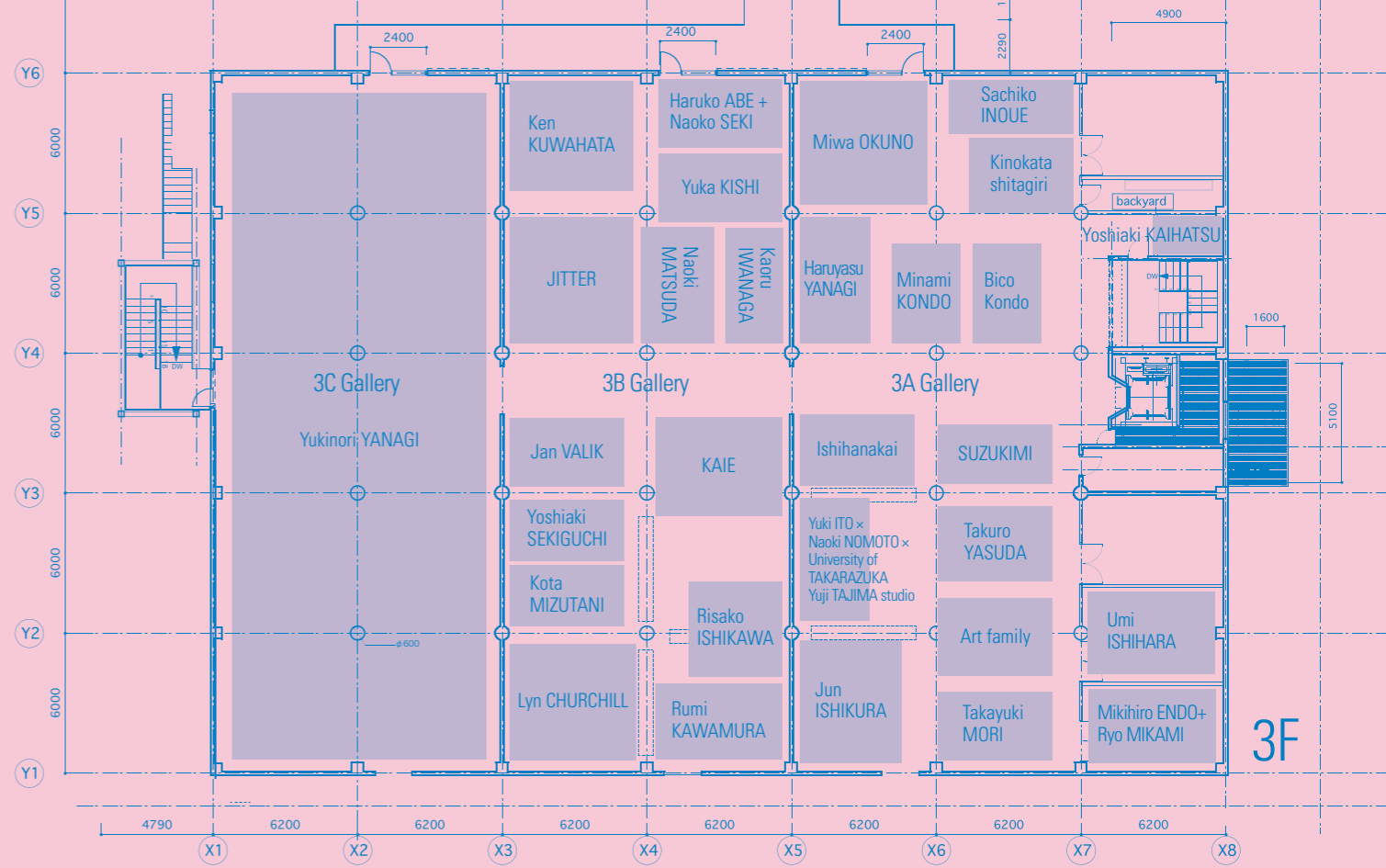


BankART AIR OPEN STUDIO 2016

5.27 Fri - 6.5 Sun 11:00-19:00 BankART Studio NYK

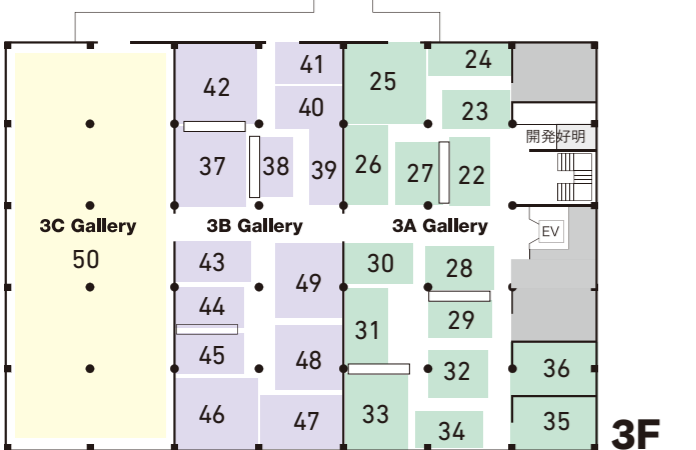
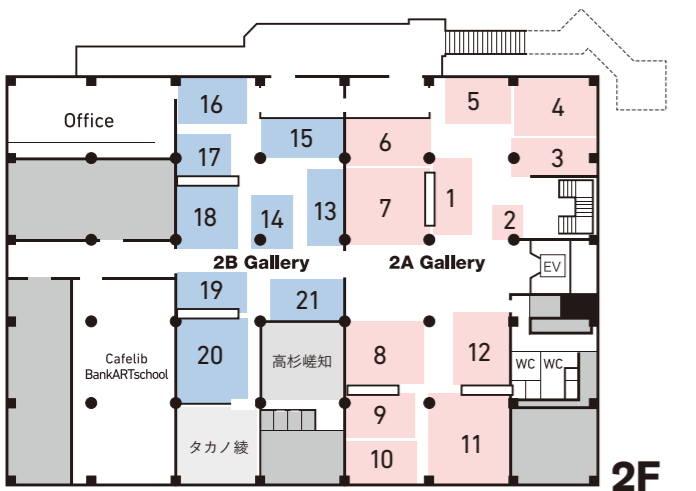
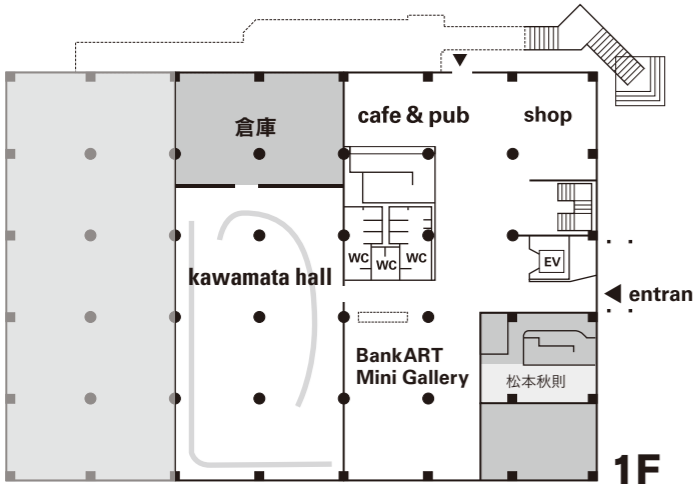
主催: BankART1929 共催: 横浜市文化観光局



お問い合わせ BankART 1929
TEL: 045-663-2812 FAX: 045-663-2813
studio@bankart1929.com

アクセス: BankART Studio NYK
〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9
横浜みなとみらい線「馬車道駅」
6出口[赤れんが倉庫口]徒歩5分

OPEN STUDIO 2016



国内外から集まった様々なジャンルの50チームのアーティストが、約2ヶ月間、生きいきとした制作現場を共有しました。いよいよこの5月27日からは、その現場を皆さんに公開します。展覧会ではありませ

- オープンスタジオ 5月27日[金] ~ 6月5日[日] 入場無料
オープニングパーティ 5月27日[金] 19:00 ~ 一般参加費¥500
- レジデンス期間 4月4日[月] ~ 6月7日[火]
- アーティストトーク@BankART Pub 19:00-20:30
4.15、4.22、4.29、5.6、5.13、5.20、6.3[金] 5.28、6.4[土] 5.29[日]
※参加費は必要ありませんが、パブにてドリンクのオーダーをお願いします。

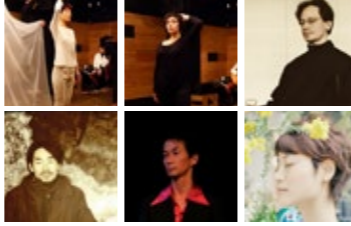
2A Gallery

1 成清北斗 Hokuto NARIKIYO
よく見て、よく考えて、何をすべきか決定するつもりです。よく食べ、よく飲み、よく寝ることも必要かもしれません。なんだかよくわかりませんが、世界が平和になればいいなと思います。
□1986年大阪府生まれ。Nomad Art ノマドアート代表。Universität der Künste Berlin(ベルリン芸術大学)美術学部留学、武蔵野美術大学院修士課程美術専攻彫刻コース修了。成清北斗ウェブサイト <http://www.hokutonarikiyo.com/>



4 SayakaMotani Collective

サヤカモタニ・コレクティブ
BankART 滞任制作中は、エドワード・フィッツェラルドの訳による11世紀イランの詩「ルバイヤート」の和訳及び舞台化、その他に連歌をコンセプトにした言葉と音、動作のセッション「Hyaku 1 ish」の展開をし、最後のスタジオオープンで発表したいと思えます。また滞任中に公開稽古やワークショップ、舞台作品「Awater」等を行う予定です。
□総合芸術監督に茂谷さやか、音楽監督・ギター奏者の栗原洋平、カナダ出身、コンテンポラリー・ダンスのセリヌ・マークス、小劇場界で活動する俳優の郡司英雄、母国ドイツでオペラを学び現在、日本で能(シテ)の修行中のローレ・レハンで構成するパフォーマンス集団。言葉、空間美術、音楽、舞踊で構成するパフォーマンス制作及び発表をしている。活動歴に茂谷翻訳のMartinus Nijhof原作 Awater を舞台化、2016年第2回東京国際文芸フェスティバルにて発表。



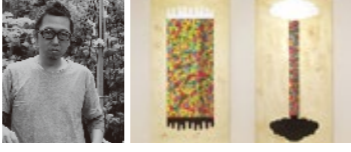
2 PH STUDIO PHスタジオ

「船、山にかえる」。広島県三次のダムエリアで、2005年にひとまぐの完成をみた、「船、山にのぼる」の継続プロジェクト。船の設置のために腐葉土を取り除き、切土したことで、植物が生えなくなった山を、丸太でできた船(筏)をチップ化することで土壌改良し、住民とともに新しい森に変換していくプロジェクトを推進する。
□美術+建築+写真家からなるユニット。発足は1984年。「家具」「家」「都市」「美術」といった既成の枠組みに対して、「棲む」というキーワードでこれらの解体と再読を試みてきている。活動は、美術館での展覧会、野外でのプロジェクト、建築設計等、多岐にわたっている。主なメンバーがBankART1929の活動に従事しているため活動が止まっていたが、久しぶりに再開する。



3 福島徹也 Tetsuya FUKUSHIMA

作品制作を通して、相反する存在(秩序とカオス、現実と虚構、ユートピアとディストピアなどの曖昧な境界線、その相互関係を探求しています。滞任期間中は、平面作品の他に、3Dプリンターで出力した造形物を組合わせた作品や、平面とプロジェクトを組み合わせた作品など、実験的なものにも挑戦する予定です。
□日本でグラフィック・デザイナーとして経験を積んだ後、アメリカ、イギリスでグラフィックデザイン、ビジュアルアートを学ぶ。卒業後、アーティストのアシスタント、アートディレクターなどの仕事を経験し、帰国。現在はアートとデザイン、双方の分野にて活動中。



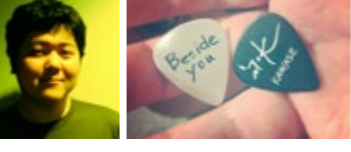
7 開発好明 Yoshiaki KAIHATSU

7月16日—9月19日に市原湖畔美術館で行われる個展「中2病展」で展示する作品の制作。展示する作品は95年ぐらいから現在までで、中2病というテーマで切り口にて展示作品を絞り込む。また市原が竹が有名な事もあり竹を使った大型の作品制作予定。
□日常にあるもの、出来事や関心をモチーフにインスタレーション、パフォーマンスなどを行い、コミュニケーションを題材に記憶や時間、経験をかたちにした作品を発表し続けています。2011年より震災支援活動「デシリョー・アート・サーカス」主宰、多くのアーティストとともに、アートで出来る事を継続的に提案しています。



8 川瀬浩介 Kohsuke KAWASE

エレクトリック・ギターによる、光、映像を演奏するためのシステム開発および、同システムを利用したパフォーマンス作品制作の可能性の探求— これまでの「固定されたインスタレーション作品」からの脱却を目指し、「ギター、エフェクター、コンピュータ」というミニマムな演奏システムにより、世界シーンへアクセスする。
□2002年より、音楽に光などの視覚要素を融合させた作品の制作を開始。以降、表現形態を問わず「開口が広く奥行きのあるもの」を追求している。2008年度、NHK 教育「からだであそび」音楽担当。2010年には、代表作「ベアリング・クローケン II」が、文化庁メディア芸術祭アート部門・審査委員会推薦作品に選出された。



9 相模智之 Tomoyuki SAGAMI

今までの蓄積した写真をエリア別、被写体別、時系列順等に分類をしていきます。各エリアごとにまとめれば、その地区の特性。被写体ごとにまとめれば、比較対象になると思えます。今回は様々な細部に目を凝らしていきたいと思えます。
□東京総合写真専門学校卒業。展覧会のために横浜黄金町にてオルタナティブスペース「Mujikobo」共同運営。(2011~2014年)この10年、横浜、川崎、東京、その他近郊の町を記録しています。その土地の知識やイメージを持ち込みたいよう撮影するための手段として配布業を兼ね、各地を万端よく歩き、同じ視点でアプローチするようにしています。



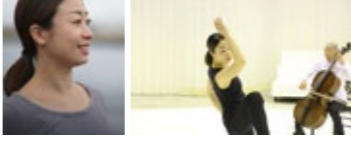
10 liquidbiupil リキッドビウピル

サイケデリック・ライト・ショーを手掛けて10年、その活動の原点となった Bankart Studio NYK にてリキッド・ライトの作品を制作します。60年代から人々を魅了してきた液体による光と色彩をこっそり覗きに来て下さい。
□2005年 BankART Studio NYK にて Open Studio 参加。2009年スウェーデンで開催された The Art of the Overhead Festival 出演。2011年横浜動物園ズーランにてライブ & ライトショー公演。2012年神奈川県立大分市子ども科学館プラネタリウムにてライブ & ライトショー公演。2015年西麻布 Shimauma Salon にて開催された液状光染で AVA、FAUST CLOTHING 両ブランドと共にコラボ作品発表。RED Exhibition of Frederic Sanzech にてオープンングライブ出演。2016年大分美術館シアター・イン・ミュージアム出演予定。



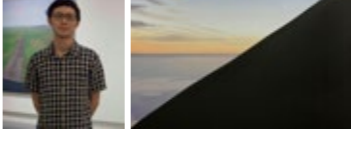
11 吉野美亜 Mia TOMANO

7月と8月に上演する作品の制作及び、身体表現の新たな可能性の研究、ワークショップを行う。ワークショップでは、音楽と舞踊の関係性に着目し、毎回テーマを設定して音楽家と共に相互間の影響を記録しながら継続的に実施する。
□山本禮子バレエ団を経て、2007年中村恵恵主宰「Dance Sanga」にて活動。中村恵恵作品に多数出演するほか、振付アシスタント等を務める。2014年横浜市テアトルフォンテ・アズビール・アワード受賞を機に、意欲的に作品制作、公演、ワークショップを開催している。



12 廖震平 Sinhei RYO

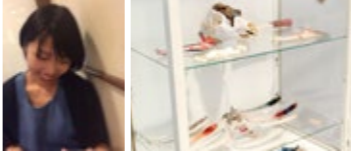
主に横浜周辺の景色を材料収集の対象にします。絵画の方法を通して、その元の脈絡を動揺する、観者の想像する空間を拡張するのを試みます。
□1982年台湾新北市出身。国立台北芸術大学美術創作研究科卒業(絵画専攻)。2015年「白いリボン」個展 科元ギャラリー(台湾台中)、「横浜北部美術公募展 2015」審査員賞、横浜市民ギャラリーあざみ野、「トキョーワンダーウォール公募2015」入選 東京都現代美術館、「二人展」Design Festa Gallery(東京)、2013「テーブルの上の未来—家とアーティスト」関渡美術館(台湾台北)。



2B Gallery

13 橋本美和子 Miwako HASHIMOTO

「眠り」をテーマに制作をします。より効率的に生産的に流されていく生活の中で、時には無駄と思われるけど、決してあらがえない睡眠欲に興味があります。眠る時間は一番プライベートで生々しく、暖かく、孤独な時じゃないかと思う。今回は友人知人に取材した布団のドローイングに始まり、実験しながら作品化を目指します。
□1986年東京都出身。2010年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。現在、東京を中心にインスタレーションや平面作品の制作・発表活動を行う。主な展覧会に2012年「小火」Lwp Asakusa、2013年「3331 ART COLLECTOR FAIR」3331アーツ千代田、「遠足プロジェクト」カナダ大使館高宮宮記念ギャラリー他、2014年「クウキのヨメナイ、ワタシたち」CAPSULE/SUNDAY。



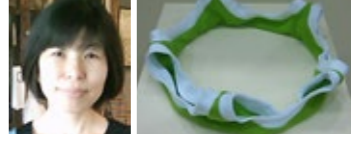
14 烏亭 Karasutei

「Japan im Palazzo - 8月26日 - 10月16日 @ Kunsthalle Palazzo Liestal」に出品する作品制作とオープニングで行うライブ彫刻ペインティングの準備。
□烏亭:2010年結成。2010年パフォーマンス×インスタレーション「TOKIONACHT」- Atelierhaus Arlesheim(スイス)、2014年 展覧会「songs for a pigeon」烏亭 with David Berweger - プラザギャラリー(東京)、2016年ライブ彫刻ペインティング「烏亭炎上」- Echo's(横浜)。□鳥山秀直:画家。多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。福沢一郎賞受賞。第28回ホルベインズ国際シンポジウム奨学生認定。□東享順:美術家。パーゼル芸術大学ファインアート修士課程中退。songs for a pigeon代表。



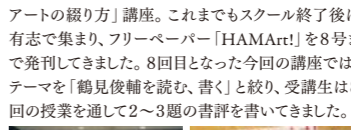
15 窪田久美子 Kumiko KUBOTA

7月の個展に向けた作品の制作。布を使って衣服を題材とした作品制作。衣服の要素や機能を再考、再構成することにより、新たな形を探る。
□神奈川県出身。B-semi schooling system 修了。個展、2010「HOLD」(新宿眼科画廊)東京。グループ展、2003「ANTINOMIE」(Gallery Objective Correlative)東京、2011 BankART Life III (YOKOHAMA TRIENNALE 2011 Related Program Shin Minatomura A Small City for the Future)横浜。その他、2010,2011 BankART AIR Program 参加。



16 アートの綴り方 vol.8 - HAMArt! 編集会議

Writing of Art Vol.8 - HAMArt! editorial meeting
先日終了した BankART スクール福住廉ゼミ「アートの綴り方 vol.8」。講座での活動や、過去の福住ゼミアフタースクールでの「HAMArt!」発刊などの展開をふまえ、今回何かしらの成果を「印刷物」としてまとめたいということになりました。スタジオでは主に、この編集会議や、各自の自習、また情報交換等の場としても機能させていきます。内容は、まだ未定の部分が多いですが、今回の講座をふまえ、鶴見俊輔を中心に据えた形で、批評、編集していく方向です。
□BankART スクールでは定番となっている「福住廉—アートの綴り方」講座。これまでもスクール終了後に有志が集まり、フリーペーパー「HAMArt!」を8号まで発行してきました。8回目となった今回の講座では、テーマを「鶴見俊輔を読む、書く」と絞り、受講生は8回の授業を通して2~3題の書評を書いてきました。



17 西井保奈美 Honami NISHII

見る、触る。感覚する体験を作りたい。素材の美しさをならべたい。インターネットの普及で伝達、消費、学習などバーチャル空間で活動ができるようになった現代において、いまだ物理的にしか表現・体験しようのないものに興味を持って制作をしています。今回の滞任制作ではスケールの大きな作品にも挑戦したいです。
□1990年三重県伊勢市出身。University of the Arts London にてテキスタイルを学び、2014年卒業後帰国。テキスタイルを用いて(非)物理性を重視した視覚と触覚に訴えるアートワークを制作する。



18 高野萌美 Moemi TAKANO

人間と自然がひとつであったと考えられる頃の、あるいは現在もそのような精神性をもつ人々の衣服や装飾品に描かれる色や形に着目し、私たちが現代の都市の生活のなかで触れるパターン(模様)の収集・再構成と並行して視覚的リサーチを行う。今回の滞任はペインティングや立体の実験的な制作の場とする。
□1993年横浜生まれ。2015年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ卒業。帰国後もイギリスを中心に海外で作品発表の機会を得ながら活動中。ものに溢れる都会に生まれ育った経験から、Anthropocene(アントロポセン・人新紀)の時代における人間のエコロジカルなあり方を模索している。



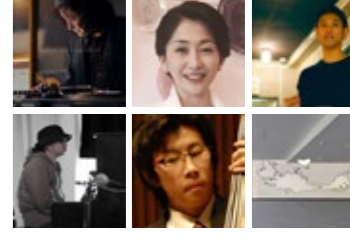
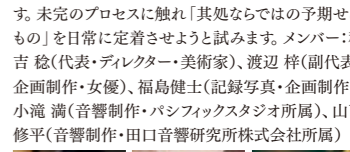
19 片岡純也 + 岩竹理恵 Junya KATAOKA + Rie IWATAKE

それぞれの作品を要素としたインスタレーションを「作品の実験」シリーズとして発表している。片岡は、スタジオの空間的特性をもとに動的メカニズムをもった装置を、岩竹はその場で受けたインスピレーションや素材を使ってコラージュや映像を制作する。オープンスタジオでは作品の実験 vol.6 を発表する。
□2013年の渡仏を機に、ユニットでの制作・発表を開始。2013年パリ市国際芸術都市アトリエ(フランス)、2014年old school art house Hrisey(アイスランド)で滞在制作を行う。主な発表に、作品の実験 Vol.1 から Vol.3 (パリ国際芸術都市/パリ/2013-2014)、ambiguous border(パリ国際芸術都市/パリ/2014)、黄金町レビュー(黄金町 site-A/横浜/2016)などがある。



20 似て非 works nitehi works

世界地図をテーマに、ごく日常の中に、其処でインスタレーションされたものを優先し、更に其処で出会う入居者や来客者との交流を基に、実際の地図上に境界の無い、其処だけの世界地図を配置して行くプロジェクト。それは「他者」と交流する事で、これまでの境界や制約上、「他者」の想像力を区画整理します。
□似て非 works とは? 日常の中の空間と活動を素材とした社会彫刻作品です。銭湯・銀行・使用禁止のトイレ・海上など元々そこにある物や場、人や町のプロセスに関わり、日常の中に領域を越えて、予想外に自由な発想を展開する活動です。日常の中で見過ごされている「そこにしかない“氣付き”」を活動の軸としています。領域を超えた交流の場作りであり、活動名です。未完のプロセスに触れ「其処ならではの予期せぬもの」を日常に定着させようと思えます。メンバー:稲吉 稔(代表・ディレクター・美術家)、渡辺 梓(副代表・企画制作・女優)、福島健士(記録写真・企画制作)、小滝 満(音響制作・パンフィックススタジオ所属)、山下修平(音響制作・田口音響研究所株式会社所属)



21 関本幸治 Koji SEKIMOTO

新たな次元を生み出すために、空間全ての静物を制作し、撮影しています。作り込まれた嘘の世界がリアルであり、より社会との結びつきを鮮明にできると思い、写真を使って表現しています。そのプロセスを見せながら(幾かのセットを組み撮影する)、体現できるような空間として最終的に見せたいと思っています。
□写真家。1969年神戸生。1994年愛知県立芸術大学修了後1996年ケルンに渡独2003年に帰国後、現在横浜にスタジオを構え国内外で制作活動中。主な展覧会として、2014年「東アジアの夢: Landmark Project V」BankART Studio NYK/横浜、2012-13年 アジア・センティブディティ/ スペイン・マドリード/フェルナン・ゴメス劇場 他巡回、「黄金町バザール2011」高架下新スタジオ、横浜など。

